

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」を掲げ五年になりました。理念を共有しより一層の絆を深めたいと「ふれ愛音頭」を作詞作曲しました。今では毎日の日課になり入浴中やお散歩中でも口ずさんでいる。	管理者は、地域密着型サービスへの思いを理念に込めて、「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」を介護サービス虹の理念として掲げ職員と共有し、常に身近なものとして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様地域の年中行事はほぼ中止となりましたが外散歩中には地域の方と挨拶を交わしたり庭に咲く花を頂き交流の機会を得ている。	「地域と共に」という気持ちを強く持ち、事業を組み立ててきたところもあったが、コロナ禍でこの3年間は様々な計画実施が難しい場面が多く、管理者はじめ職員は、残念な思いがあったとのこと。今年は地域の夏祭り「四ヶ村盆踊り」がようやく再開され、夜なので全員は行けなかったが、希望利用者と共に出かけることができた。また、主催する地域のお茶の間での交流が再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人クラブから講演会の依頼があったが感染症が地域で蔓延し中止となった。5類に移行し9月に再計画の予定である。お茶の間サロンの再開が4月から月一回開催され地域交流に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は6回の開催中一回のみ対面での開催でした。5回は感染拡大防止の観点からサービスの取り組み状況の報告を文章で委員に郵送し意見を集計し会議録での報告とした。(保険者の了承を得ている)	去年は文書での会議録報告が多かったが今年は、出席いただく形で開催している。会議は隣接の小規模多機能事業所・家族・五泉市・包括支援センター・民生委員などの参加を得て、報告や意見のやり取りなどができている。これらを文章にまとめ、参加者や家族などへ事業所からの「お便り」ないう通信」などを添えてお送りし報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5		○市町村との連携			
	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から包括支援センター、市の担当職員と密に連絡や相談を行い助言及び協力を得ている。また運営推進会議等でも問題や課題についても話し合う機会を得、協力関係を構築している。	市町村担当者や地域包括支援センター職員の方には、事業所の運営会議にも参加してもらっており、相談・助言・連絡が出来るような関係性ができている。以前、地域にあるグループホームの情報交換の場を管理者が発案要望し、市内のグループホーム関係者が集まり話し合いや交流を行うにいたった経緯もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化委員会」が中心に職員全員で取り組んでいる。定期的にアンケート（不適切ケア等）調査を実施。集計後検討会議を開催し身体拘束をしないケアに努めている。	マニュアルは整備され、身体拘束適正化委員会は事例アンケートや不適切ケアとは？を、議題にし話し合っている。職員全員参加の形で行われるときもあり、定期的に研修は行われ、身体拘束のないケアへ取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止については身体拘束に関連していると理解し同様に職員全員で真摯に取り組んでいる。スピーチロックのアンケート調査を定期的実施し効果を得ている。	マニュアルは整備され、虐待防止に関する研修は全員参加で行われている。「スピーチロック」や「不適切ケア」はなぜ起こる？など、具体的な形で行われており、コロナ禍で各自でのオンライン研修を行ってきたが、対面研修を再開し「この場合は？」など質問もあった。管理者と職員は継続してやっていこうと話合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会や研修会があれば参加し個々の理解と活用に繋がる様取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書の内容に沿って説明と理解を得て締結している。不明な点や質問などについても丁寧に説明し理解を得られる様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「外部評価家族アンケート」の評価結果等も参考に要望意見を運営に反映させている。面会に来苑時には利用者を交えご家族に現況報告を行い意見や相談に応じている。	県外に住む家族の方も数名おられる。毎月の請求書とともに、園内での様子がわかるように写真や手紙を添えて送付しており、できるだけ家族が事業所に来てもらえるよう声かけしながら意見をもらうよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、年度末や決算時に運営に関する報告会議を開催し意見交換や提案を聞く機会を設け反映させている。	職員の意見や質問を聞く機会を設けている。意見や質問に即答できることは、できるだけすぐ返事ができるよう心がけている。その他は本部に伝え、意見交換や提案していたことを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが全職員との面談の機会を設けている。個々の勤務状況や実績を考慮し人事考課等に反映し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の目標や学ぶ姿勢を把握し研修の機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所連絡会議に参加し情報交流の機会を得、ネットワークを通し各事業所間でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学等来苑された折に困っていることや心配事、今後の望む暮らしなどを傾聴し安心の確保や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談及び事前面談を通して入所に辺りこれまでの生活歴や環境、今後の望む暮らしへの要望など情報収集し関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の段階ですべて必要とする支援を見極めることは困難であるがその時々の変化を勘案し他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念である「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」をモットーにお互いに支え合う関係の構築に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染拡大防止対策を講じて家族との面会を可能とし本人の誕生日や敬老の日など共に支え合い家族の絆を大切に関係を築いている。	管理者や職員はできるだけ利用者本人が家族との関係が途切れないよう、声掛けなどしながら見守っている。かかりつけ医や協力医師の往診を得ており、状況も安定しているが家族の付き添いでの受診もあり、面会時等で話し合う機会を持つことで関係性を大切にしながら支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は感染拡大防止対策を講じて県外からの親戚の方や地域の花見に出掛け馴染みの方との交流も実現出来関係構築に努めている。	ようやくコロナ禍からの影響が少なくなりつつあると管理者・職員は感じながら支援している。受診時や家族が毎月の利用料金を支払いに来園されたとき、面会交流の時間も増え地域に住み家族や顔見知りのかたとの関係性が、無理なく継続されていると管理者は思い支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を共に支え築き合い一人ひとりの個性を尊重しお互いを認め支え合う関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても本人、家族との関係性を維持し必要に応じて相談支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に得た情報を「私の姿と気持ちシート」に記載し暮らしの意向や希望の把握に活かしている。適時居担が主に追加記載し情報共有している。	入居前の利用者本人の状況をセンター方式の一部に家族から記入してもらい、入居前のケアマネージャーからの記録や聞き取りした情報を「私の姿と気持ちシート」に記入し、利用者の思いや意向の把握に努めており、変化時は管理者・職員ともに参加し検討している。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前任担当ケアマネ等からこれまでの生活歴や環境など情報収集し本人らしい生活スタイルに反映出来る様努めている。	利用者一人ひとりの生活スタイルの違いに留意しながら、これまでの暮らしや生活歴などを、利用者の何気ない会話や言葉などからくみ取り、現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身の状態、有する能力など現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居担制を取り入れている。各課題の検討、定期的な評価モニタリングを実施しサービス計画に反映している。困難事項などは家族の意見を聴き取り計画に反映し作成している。	事業所では、施設長・管理者・計画作成者を一人で兼務している。入所時、利用者・家族から聞いた生活の様子やこれからの生活への思いを加え、入居前これまでのプランを基にして、計画作成者が初期プラン作成、居室担当とともに検討し記入している。利用者の日々は目まぐるしく変化することもあり、介護計画や経過・それに伴う検討などの記録を残せるよう、管理者は今までの経験を生かしながら行っていきたいと思っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を業務日誌に記載、情報共有に活かしている。申し送り事項等は専用のノートに記載、気づきやケアの見直し事項としてサービス計画の見直しにも活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種申請書類の記入、提出代行、生活用品の購入などの支援を行っている。理美容の希望で馴染みの店への送迎など家族の代行支援としても柔軟に取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も地域の主な行事は開催されることがなかったが事業所が主催する地域のお茶の間「笑い和い」を感染状況を踏まえつつ不定期で開催し楽しむ機会に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医があり定期受診同行や訪問診療時等で医療情報提供を行っている。	利用者・家族が望むかかりつけ医を基本としているが事業所の協力医による往診が月1回あり、それに伴って家族の希望によっては協力医に移行する利用者もある。他科受診時においては家族を基本としつつ、都合がつかない時は事業所が対応している。また緊急時においては協力医により必要時他医療機関へも結びつけるなどスムーズに医療の連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員、看護職員は毎日合同でミーティングを実施している。都度、利用者の情報を共有し健康管理に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療情報提供や退院時カンファレンスを開催したり各職種間の連携を図る等関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期について十分に説明し意向を聞き取っている。施設での「看取り」や重度化になった場合などの支援体制を整え取り組んでいる。	看取りについての方針は管理者より家族に説明しており、希望があれば要望に応えたいとしている。ただし、早い時期からの約束はせず、その時期を迎えた時、改めて家族の意向を確認し希望に沿って対応をしたいとしている。看取りの経験もある中で、苦しみや、痛みを除くことを優先に考え、介護、医師・家族等でその都度検討していくとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルの見える化に取り組み看護師を中心に定期的に訓練や勉強会を開催し実践力に繋げている。	緊急時や事故発生時のマニュアルの備えはある。コロナ禍にあっては感染予防対策が喫緊の課題であったため、即対応できるようにマニュアルの見える化に努めてきた。またAEDによる普通救命講習は定期的に訓練を実施している。今後は看護師を中心に予測される急変時に備え、いざという時の実践力に繋げて行きたいとしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え年2回の避難誘導訓練を職員全員で消防士の立ち合いで実施している。今年度は夜間を想定同敷地内の小規模多機能と合同での避難訓練を実施し協力体制の構築に努めている。地域消防団との合同訓練は今年も未定である。	マニュアルの整備はできている。年2回消防署立合いの下、同法人の小規模多機能と合同で避難訓練を実施しており協力体制ができている。避難経路、避難場所についても確認し全職員は周知している。備蓄品や避難防具についても整備されている。地域住民の参加についてはできてないが日頃から顔なじみの協力者も多く、コロナ禍の緩和により、今後は期待できるとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の個性と人格を尊重し理念に沿った声掛けや寄り添うケアの実践に取り組んでいる。支援に当たり傾聴、受容、共感を重視し心に届くケアに努めている。	利用者の尊厳やプライバシーについて研修も重ね、常に職員の言動や態度に注意を払っている。同法人でプライバシーに関わる問題があった際、我が事として重く受け止め、事業所の全職員で検討し適切な対応について話し合い、振り返りを行うことで意識を高め合っている。職員で気になる場面があった時は即管理者が対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「私の姿と気持ちシート」を活用し本人の思いや希望を表出し自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを重視し本人のペースで過ごされている。その日の気分や体調に合わせて身体機能の維持、気分転換を図る等希望に沿った支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ身だしなみやヘアカット、ヘアカラーなど希望を聞き取り個々の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季を通して行事食を企画、調理の仕方を伝授して頂き楽しみの食事会となっている。また畑で職員と一緒に収穫した食材を使い調理に取り入れ喜びや楽しみに繋げている。	管理者は食の楽しみは絶対に譲れないとして徹底して手作りに拘りをもっている。近隣からの差し入れや事業所で収穫した季節の野菜をふんだんに取り入れ創意工夫しながら食卓を豊かにしている。利用者には配膳から片付けまでのテーブル拭き、食器拭き、トレ拭きなど職員と共に楽しい食卓づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを記載しひとり一人の摂取状態を勘案し栄養バランスの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは支援の日課となっている。個々の口腔状態を観察し出来ることは見守り一人ひとり声掛けや必要なケアの支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し日中は失禁の軽減を図る為定時のトイレ誘導、就寝前には夜間用パットの使用など個々に合わせた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、本人にとって不快で無く「心地良い」「安心」を優先し、パットやオムツは個々の身体状況から判断し安易な使用はせず、日中や夜間のパットの種類を変えたりして個々の排泄に合わせた対応をしている。それによって改善した事例もあり職員は排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向で排便コントロールが必要な為、排便チェックを記録し内服管理、水分量や食事量を把握しひとり一人の状態に沿った便秘予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を予定しているが体調や気分により拒否がある場合は臨機応変に個々に沿った支援に活かしている。	入浴は週2～3回をを基本として対応しているが利用者の体調や気分によってスムーズに行かない時は誘導時の声掛けを工夫しながら臨機応変に無理強いすることなく支援している。浴室は広く機械浴の設備もあり、重度化の対応にも可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を重視し居室で休息や観たいテレビ鑑賞をされ自由に過ごしている。昼の静養時間に親しい利用者同士で集まりおしゃべりに講じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬情報を収集し看護師が配薬管理している。内服チェック表でダブルチェックし誤薬を防いでいる。毎日朝のバイタルチェックを行い病変の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から趣味や特技等の情報を収集し楽しみややりがいを引き出す支援に取り組んでいる。編み物が得意、家事が好き、花が好きなど個々の生活歴を踏まえ楽しみや気分転換に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体力や身体状況に応じて苑庭の散歩や季節ごとの花見や市街へのドライブに出かけている。また、戸外でのお茶会やラジオ体操、季節の野菜の収穫祭や花火大会など多種多彩に興じ楽しんで頂いている。	感染症対策が緩和してから、利用者の体力や身体状況に配慮しながら事業所周りで散歩したり、月1回お茶の間サロンに行ったりしている。また利用者の要望に応じて、おやつを買いにスーパーに足を運んだり、ドライブなどで気分転換を図っている。今年は地域の盆踊りにも参加するなど利用者の楽しみの支援が広がっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難でありご家族からお小遣いを預かり日用品などの購入支援を行っている。ご本人の希望で嗜好品や衣類等購入時は同行し支払いをして頂く事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が県外に在住されている方がおられ祝い事には手紙や品物が届きます。折り返しお礼の電話を促し家族との絆を深めており自ら電話の希望があれば取り次ぐ支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓から入る日差しが明るく心地よさを演出している。中央にアイランドキッチンを設置しておりご利用者と調理の準備や後始末のお手伝いを通してコミュニケーションの場となっている。「ふれ愛コーナー」は家族や地域交流の場として活用している。	玄関を入ると木製の梁が天井高く吹き抜けとなっており、外から自然光が射し込み解放感に包まれる。玄関からは「ふれ愛コーナー」が来客用に設えられ、その先はアイランドキッチンが設備され側面は仕切りがなく動線が広く遮るものがない。壁には利用者の制作した様々な作品が心地よく飾られている。事業所の各所に収納庫も多く整理整頓され広々とした空間は利用者や職員にとって安全、安心で居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールは共有スペースでテレビ鑑賞、カラオケやレクゲームなどの場となっている。個々の身体状況に合わせて適時席替えをし居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室ベット、チェスト、クローゼットを設え馴染みの家具や調度品も持ち込んで頂いている。空気清浄機を設置し環境にも留意しご家族と一緒にゆったり過ごして頂ける広さで椅子も各室用意している。	馴染みの生活用品の持ち込みは自由となっている。ベット、チェスト、クローゼットは備え付けられ各々が自分らしく安心して暮らせるよう飾り付けがなされている。ゆとりを感じさせる居室からは景観も良く、各居室には空気清浄機の備えもあり感染症対策等にも留意され、安心、安全で居心地よく過ごせるよう支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全個室である。キッチンや食堂、共有スペースの配置を工夫し天井からの自然光をふんだんに活かした建築です。和風の雰囲気の特徴に落ち着いた環境の中での生活を重視している。		